、昭和四十三年寮歌

難攻不落を誇りしも 北溟牙城の夏の宵ほくめいがじょう なっ よい 樹梢霧海に消え入りてじゅしょう むかい き い

時凋衰の風強

秋の今宵の宴にも の意気に涙する の石に佇みて

貧交行の風寒し

今高らかに誓いけん 極陵の二春に宿せる白露 ゆりょう にしゅん やど しらつゆ 久遠なる星に さにあらば吾等が友よ 生命短命にして吉しとするいのちみじか に大志を告げるべく 0

> 迪をたずねる 真 建 理 朔風如何に荒吹とも 白雪深き北国にはくせつふか きたぐに の郷は遠からじ る旅人よ

あすの生命を闘うと

いざ寮友ようたわなん

几

高遠き大望を目指さんやたか のぞみ めざ 万花乱るる春の日に

佐藤菊男君 橋 登 君 作 作 Ж 詇